

平成 21 年 6 月 22 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19830055
 研究課題名（和文） リース会計基準改訂の意義と社会的受容に関する研究
 研究課題名（英文） A Research on the Reasons for Recent Lease Accounting Standard Setting and its Acceptance in Japan
 研究代表者
 岡本 紀明（OKAMOTO NORIAKI）
 流通経済大学・経済学部・准教授
 研究者番号：00433566

研究成果の概要：

本研究は、企業会計基準委員会がリース会計基準の改訂に至るまで、なぜ5年以上もの歳月を要したのかという問題意識を持つものであった。当該問題意識のもと、本研究は公表された基準の内容や政策過程を詳細に分析し、理論的な側面から考察を加えた。その結果、企業会計基準委員会のコンバージェンスに対する必要性の認識の強さと、コンバージェンスがもたらす法人税法との連関の問題の2点が特に浮き彫りになった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	830,000	0	830,000
2008年度	880,000	264,000	1,144,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,710,000	264,000	1,974,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：リース会計、会計基準のコンバージェンス、確定決算基準、制度的補完性、政策過程分析

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、改訂基準の公表後に様々な利害関係者からの反発や反応があると想定されたが、さほど大きな動きはなかった。そのため、実際の研究は基準改訂過程の分析に研究に重点を置いた。

2. 研究の目的

- (1) わが国リース会計基準改訂の意義の検討

- (2) 利害関係者が改訂基準を受容する過程の分析

- (3) 試案に対する利害関係者の対応の分析

3. 研究の方法

- (1) 議事録等の一次資料の分析に基づくリース会計基準改訂の緻密な分析
 (2) 議事録等の一次資料の分析に基づく関連する法人税法の改正過程の分析
 (3) 経済学や社会学等隣接領域における知

見を援用した会計制度の分析

4. 研究成果

研究成果としては、以下に示すように雑誌論文が2件、著書（分担執筆）が1件、および国際学会での発表が3件と合計6件の十分な成果があったと思われる。また、そのうち査読を経たものが4件であった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

岡本 紀明「わが国リース会計基準改訂の政策過程分析—会計基準のコンバージェンスの追求と法人税法との補完性—」、『流通経済大学論集』査読無、第44巻第1号、2009年、23-37頁。

Okamoto Noriaki, "Socio-institutional Perspectives of Reality in Financial Accounting-The Creative Compliance and Accounting Standard Setting in Japan-," *International Journal of Critical Accounting*, forthcoming (査読有)。

〔学会発表〕（計3件）

Okamoto Noriaki, "Socio-institutional Perspectives of Reality in Accounting-The Creative Compliance and Accounting Standard Setting in Japan-," The 31st European Accounting Association Annual Congress, 2008/04, Erasmus University of Rotterdam (査読有)。

Okamoto Noriaki, "Socio-institutional Perspectives of Reality in Accounting-The Creative Compliance and Accounting Standard Setting in Japan-," The Critical Perspectives on Accounting Conference, 2008/04, City University of New York Baruch College (査読有)。

Okamoto Noriaki, "International Norms and the Convergence of Accounting Standards in Japan," The Interdisciplinary Perspectives on Accounting Conference, 2009/07, Innsbruck University School of Management (査読有)。

〔図書〕（計1件）

岡本 紀明「原則主義会計と細則主義会計—アメリカ・イギリス・カナダにおける動向」古賀智敏編著『財務会計のイノベーション』査読無、第14章所収、中央経済社、2009年。

〔産業財産権〕
○出願状況（計 件）

○取得状況（計 件）

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本 紀明 (OKAMOTO NORIAKI)
流通経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：00433566

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者